

アクセス方法

<電車>  
甲府駅→JR身延線「甲斐岩間駅」下車（約50分）

<車>  
中央自動車道「甲府南IC」→国道140号線  
→市川三郷町（約40分）

memo



小さな旅 ホームページ  
http://nhk.jp/kotabi

# 小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 80

印を 刻む  
～山梨県 市川三郷町六郷～

2013年1月13（日）放送



ハンコを大切にすることは、町の子どもたちにも受け継がれたいと思います。毎年、地元の大郷小学校の6年生たちが卒業記念に行うハンコ作り。子どもたちは、自分の名前に向きあひ、真剣に彫っていきます。それを支えるのは、町の職人たちが、この道に入ってから20年以上になります。逆さ文字で細かく書き入れる「字入（じいり）」、指先に力を集中させて削る「荒彫（あらぼり）」、輝くほどに鋭い刃で調整する「仕上げ」。すべての工程は手作業です。使う人の役に立つようにと願いながら、小さな面に向かう日々です。

## 卒業記念は“自分”の証し

旅の見どころ 3

富士を仰ぎ、富士川の流れるに抱かれた山梨県市川三郷町・六郷地区。

山地に囲まれ農業に不向きなこの地では、明治時代、地元にあった水晶の研磨技術を生かして、ハンコの生産が盛んになり、全国有数の産地となった。人々にとってかけがえのないハンコを、手彫りで作る職人の技。人生の大切な節目を彩る印を大切に使い続ける町の人。そして、子どもたちに、名前の尊さを知ってもらうハンコ作り。雄大な風景の中、息づく伝統に触れる旅。



## 熟練の技 光る

旅の見どころ 2

## 旅の見どころ 1

### ハンコの里 六郷

山に囲まれ斜面の多い六郷。江戸時代から、農家の副業で足袋を作り、行商人が全国を回って売り歩いていました。ハンコの製造が始まるのは明治に入ってから。明治6年、証書には必ず実印が必要であると定められ、ハンコの需要が高まります。それに目をつけた六郷の行商人たちは、当時、甲府で採掘・加工された水晶印を持って、全国を売り歩いたといいます。やがて、六郷に舞い込む注文は急増。みずからハンコを彫るようになった人が増えていきました。

